～福岡県の地域コミュニティ情報誌～

きずな

No.15
令和元年
9月発行

福岡県

嘉麻市千手小学校のシンボル　けやきの木

［目　次］

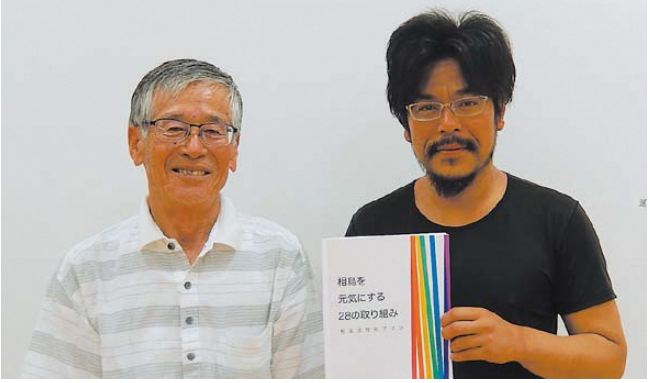
相島活性化協議会（新宮町）……1・2
千手けやき会（嘉麻市）……3・4
県庁お知らせ掲示板……4

■ 相島活性化協議会（新宮町）

次の世代が誇りを持って住むことができる島を目指して

～相島活性化協議会（新宮町）～

福岡市に隣接し、交通アクセスが良いことや自然に囲まれた落ち着いた住環境を形成していることなどから、平成27年国勢調査で人口増加率全国1位となった新宮町。しかし、新宮漁港から北西7.5km、町営渡船で約20分の海上に浮かぶ離島・相島は、人口減少と少子高齢化が急速に進行し、人口は250人程度、高齢化率は60%を超えています。



相島活性化協議会の山田会長（左）と
漁村留学を支える会の花田会長（右）

平成28年7月より、「相島区まちづくり検討会議」と称して始めた取り組みは、平成29年6月には「相島活性化協議会」と名前を変え、「相島を元気にするためには、どうしたらいいのか」を、島民や相島で活動する団体、行政などが集まり検討を重ねてきました。

相島活性化プランの策定

相島の人口減少・少子高齢化をくい止めようと、「相島を元気にする28の取り組み　相島活性化プラン」を定め、大きく3つの取り組み①子どもを産み育てやすい環境をつくる、②島外への転出を抑える、③新たな移住者を受け入れる、を戦略的に実行していくこととしました。

このプランを1冊の本にまとめ、全戸配布することにより、「島民が一致団結して挑戦し、次の世代が誇りを持って住むことができる島であり続けてほしい」と、協議会の山田会長は思いを語ります。

漁村留学で子どもを育て、地域を元気に

さまざまな取り組みを進める中、特に力を入れているのが、相島小学校・新宮中学校相島分校で受入れを行っている漁村留学です。移住のきっかけをつくり、人口を増やしたいという島の思いと、子どもたちに豊かな学びを経験してほしいという学校の思いから、平成30年度に留学生の受入れを始めました。

一時は児童・生徒数の減少により、豊かな学びができなくなると危惧していましたが、令和元年度は、島の小・中学生が12人、留学生が17人まで増加しました。年齢の近い子ども同士が切磋琢磨することにより、「知（学力）・徳（心）・体（体力）」を育んでいます。

また、高齢者サロンで交流したり、子どもたちが自らの手で学校通信を全戸配布したりするなど、高齢者と子どもがふれ合う機会も多くあります。こういった取り組みにより、高齢者が元気になるというメリットもあり、島全体が活気づいています。

漁村留学についてお話いただいた相島小学校の恵良校長先生は、「島の子だけで学校生活を送っていた時より、子どもたちが生き生きとしている。子どもが元気だと、周りの大人も元気になり、島自体が元気になったと感じる。大変なことも多くあるが、漁村留学に取り組んでよかった」と目を細めます。

取材の日、夏休みにも関わらず遠泳大会の練習をしていた子どもたちは、元々は別の学校だったと思えないほどの仲の良さでした。元気いっぱいに挨拶を交わしてくれ、漁村留学を行っているからこそ培われたであろうコミュニケーション力と、島の雄大な自然が育んだ豊かな心を実感することができました。

相島小学校の恵良校長先生

平成30年度に相島小学校の児童が制作した壁画

いけま売りでファンづくり

漁船の「生け間」から直接販売する「島の漁師のいけま売り」を毎月（1月・8月以外）新宮漁港で開催しており、好評を博しています。4月は唯一、相島で開催し、1,000人ほどの集客があります。特にアジが人気で、市場に出回るのは網で獲ったものが多いのに対し、一本釣りで獲った希少価値の高いものです。

以前、いけま売りで魚を購入された方から、お礼の手紙を受け取ったこともあり、相島のファンづくりにつながっていることがわかります。

いけま売りは、漁師だけでなく、島民のボランティアや漁協の協力があって開催できているもので、今後の人手不足が懸念されています。

また、天候によっては魚が獲れず、開催を断念せざるを得ない場合もあり、継続性のある取り組みとしていくことが課題となっています。

活動への思い

「プランを立てただけでは、絵に描いた餅になってしまう。予算の都合などがあり、今すぐ全てを実行できるわけではないが、やれることから、少しずつでも実行していきたい」と、山田会長は活動への思いを語ってくださいました。

さらに、相島積石塚群や太閤潮井の石など、おすすめの観光スポットも教えていただきました。こういった観光スポットの環境を保全するため、新宮町おもてなし協会（観光協会）と連携し、観光客へのごみ拾いの呼びかけを行っています。ぜひ、みなさんも、環境を守りながら観光を楽しんでください。

「千手のともし火」地域の火を消さないための活動

～千手（せんず）けやき会（嘉麻市）～

嘉麻市は、福岡県のほぼ中央に位置し、遠賀川の源流を有する、緑に包まれた自然豊かな市です。春にはつつじ、梅雨にはあじさい、夏にはひまわりが色鮮やかに咲き誇ります。また、九州では珍しく、りんごが生産され、秋の味覚を求めて多くの観光客が訪れます。

嘉麻市千手地区を活動拠点とする「千手けやき会」では、地区の活性化を目的とし、伝統・文化・芸術・特産物の発掘及び情報発信を行っています。東峰村で開催されるまつりの手伝いをし、反対に千手地区で開催するまつりを手伝ってもらうなど、近隣市町村と連携する取り組みも行っており、地区内に限らず活動しています。

会のメンバーは20代から80代で構成され、幅広い年齢層で活動することにより、長く続いていく組織を目指しています。

千手けやき会で企画部の副部長を務める松隈さん

会の成り立ち

平成26年３月31日に千手小学校が閉校されることとなり、その閉校イベントを開催するため、「閉校イベントの会」を立ち上げました。

1,000人以上が参加した閉校イベントを終えると、「一回きりではもったいない」「継続的なイベントにしたい」という声が地域からあがり、「千手けやき会」に改称し、活動を続けていくこととしました。

会の名称は、千手小学校のシンボルである大きなけやきの木から名付けています。この木は樹齢100年を超え、市の天然記念物にも指定されています。

参加型で楽しむ千手灯ろうまつり

さまざまな活動に取り組む中、特に力を入れているのが、毎年３月に開催している千手灯ろうまつりです。

制作部、企画部、出店部、広報部の４グループに分かれ、5,000本の竹灯ろうづくりやポスター・チラシづくりなど、11月から３月までの４か月間、慌ただしく準備に励みます。近年は、小石原焼とオランダパンケーキのセット販売や新商品の開発、千手マルシェの開催など、さらに工夫を凝らしています。

毎年多くの客を集める秘訣は、参加型で誰もが楽しめるまつりにすることです。その一環として、地域の高校生に灯ろうを制作してもらっています。これにより、制作した生徒本人だけでなく、保護者にも足を運んでもらう効果があります。また、材料となる竹を伐採することにより、竹林管理にもつながっています。

次回は令和２年３月21日（土）に開催予定です。ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか?

第4回千手灯ろうまつりの様子

千手灯ろうまつりのチラシ（左が第３回、右が第４回）

活動テーマ

会での活動テーマを一言で表すと、「千手のともし火」とのこと。「地域の火を消さないための活動を行っていきたい」との言葉どおり、まつりの開催にとどまらず、清掃活動や地域異文化交流、他地域の手伝いなど、意欲的に活動しています。100歳を超す方も積極的にイベントに参加しており、まるで火がともっているかのように、明るく、温かく、元気な地域づくりにつながる活動であることを証明しています。

会の名称の由来となったけやきの木の前で記念撮影をする千手けやき会のみなさん

県庁お知らせ掲示板

「地域防災力充実強化大会 in 福岡2019」を開催

消防団を中核とした地域防災力の向上を目的とした大会を開催します。福岡県は「平成29年7月九州北部豪雨」「平成30年7月豪雨」と2年連続で被災したことから、豪雨災害をテーマとした基調講演、事例発表等を実施します。

▶日時

令和元年10月25日（金）13:00～

▶場所

北九州ソレイユホール
（北九州市小倉北区大手町12番3号）

▶対象者

地域住民、自主防災組織、企業、教育機関、行政機関（防災機関含む）

消防防災指導課　092-643-3111

民生委員・児童委員一斉改選

～3年に1度の一斉改選が行われます～

民生委員・児童委員は、各市町村で活動するボランティアで、住民の最も身近な相談・支援者です。民生委員・児童委員は、高齢者を訪問しての見守りや、子育て世帯の相談支援等、地域福祉推進のため様々な活動をしています。

民生委員・児童委員は任期が3年（再任も可能）で、任期満了に伴い今年12月1日に一斉改選が行われます。

まだ民生委員・児童委員の候補者がお決まりでない場合は、市町村へ候補者の推薦をお願いします。詳しくは市町村の民生委員担当課へお問合せください。

福祉総務課　092-643-3243

きずな

編集・発行　福岡県企画・地域振興部市町村支援課
〒812-8577　福岡市博多区東公園7-7
TEL.092（643）3302　FAX.092（643）3078